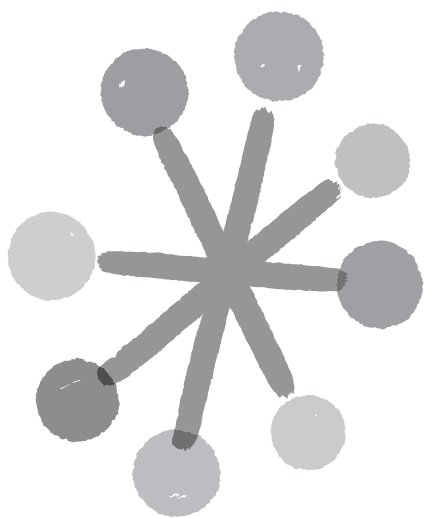


進めよう！ COPD 対策



イラストレーション：ペドロ山下

健康日本 21(第2次)では、対策を強化すべき疾患として新たに、慢性閉塞性肺疾患 (chronic obstructive pulmonary disease; COPD) が指定されました。COPD という疾患名は 50 年以上も前に提唱されたものです。しかし、最近提唱されたばかりのメタボ(内臓脂肪症候群)やロコモ(運動器症候群)と比べて国民の認知度は低く、健康日本 21 では「COPD の認知度の向上」を当面の目標として定めております。

COPD の現状としては、診断率の低さも大きな課題といえます。国内での疫学調査(NICE study: 2001 年)による COPD の有病者数は 530 万人と推計されたのに対して、患者調査に基づく受療者数(COPD と診断され医師の管理下にある患者数)は 20 万人前後であり、最近 10 年間ほとんど変化がありません。

このように認知度や診断率はなかなか改善しない COPD ですが、予防や治療に関する研究は活発であり、その病態や発症機序、病状の進行のしかた、早期発見や治療方法などの新しい知見を含めて、大きな進化がみられます。COPD は「肺の生活習慣病」とも呼ばれてきましたが、最近の研究では、COPD が動脈硬化や糖尿病などの悪化因子となることが判明しており、全身性炎症という視点から対策を強化すべきとされています。

そこで本特集では、公衆衛生関係者が COPD の予防や治療支援などの対策に積極的に取り組むことを意図して、COPD の病態、予防、早期発見、および治療などに関する最新の知見を解説し、実際の対策の進め方などについてご提言をいただきます。